

[全体計画]

小学部第2学年 国語科学習指導案

日時	平成**年**月**日 (*曜日) 9:40~10:25	場所	〇〇〇教室
指導者	T1〇〇〇〇 T2〇〇〇〇		
単元名	「ひらがなをならべよう～たべもの～」		
単元設定の理由	<p>本グループは、小学部2年生の男子〇名、女子〇名の計6名で構成されている。自閉スペクトラム症や、脳梁低形成、脳性まひのある児童など、障害の状態はさまざまである。友だちへの関心が強まっている児童が多く、休み時間には、遊びを通しての児童同士のやりとりも生まれるようになってきた。自立活動では勝敗のあるゲームに参加し、うれしいや悔しい、勝ちたいなどの感情も育ってきている児童も多い。しかし、見通しをもつことができないと、強い不安や混乱によって、参加が難しかったり自分のペースで進めようとしたりする児童もいる。「平仮名の読み」については、濁音を学習中の児童から、半濁音や拗音も読むことができる児童までおり、実態に差がある。絵本や献立表に興味をもち、自ら声に出して読む、わからない文字情報について教師に聞いて読もうとする、表出は少ないが質問に単語で答えられる、絵からの情報や会話を中心に楽しむなど、「読む」ことへの関心も幅広い。</p> <p>そこで、自分で文字から情報を得られる楽しさを体験しながら、「読んでみたい」という関心や意欲を育み、読んだり組み合わせたりすることのできる平仮名を増やしていきたいと考え、本単元を設定した。本単元は、特別支援学校学習指導要領小学部国語科の内容2段階「(3)文字などに関心をもち、読もうとする。」と、3段階「(3)簡単な語句や短い文などを正しく読む。」に基づいている。家庭で献立を確認してくる、給食前に献立を見るなど、給食を楽しみにしている児童もおり、日常生活につなげていくことのできる身近な題材として、食べ物を取り入れることにした。</p> <p>指導にあたっては、以前から学習している「ひらがな表」を継続して取り入れることで、「平仮名を組み合わせる」という新たな学習活動にも少しでも抵抗なく取り組めるようにした。「組み合わせる→読む」を繰り返すことで、文字と音の一致を図る。読みの実態差には、使う文字の難易度や文字数、一文字ごとの区切り線の有無などで対応していく。濁点や半濁点の有無、拗音「ゃ・ゅ・ょ」への注目など、一文字ごとの違いをよく見比べるというポイントを繰り返し伝えていく。「やってみたい」という気持ちを引き出せるよう、好きな食べ物を題材としながら、自己選択の場面を取り入れていく。学習のパターンを構築し、見通しをもって取り組めるようにすることで、一人ひとりが安心して、楽しみながら平仮名を学ぶことができるようにしたいと考える。</p>		
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○自ら文字を読もうとすることができる。(関心・意欲・態度) ○友だちの答えが合っているか答えることができる。(思考・判断・表現) ○平仮名の文字カードを組み合わせ、単語を作ることができる。(技能) ○濁音、半濁音、拗音で点や文字が小さくなると読み方が変わることを知り、平仮名で示された食べ物の単語を読むことができる。(知識・理解) 		
指導計画 (6時間扱い) 本時は 第5時	<p>第1次 ひらがなくいずをしよう 2時間 第1時・・・ ひらがなひょうをよもう 第2時・・・ 〇〇はどっち？</p> <p>第2次 ひらがなをならべよう 4時間 第1～4時・・・ ひらがなをならべよう～たべもの～ (本時は3/4時間目)</p>		

[本時の指導]

1 全体目標

○平仮名の文字カードを組み合わせ、食べ物の名前を作ることができる。(技能)

2 児童の実態及び個別目標

- ①自ら文字を読もうとすることができる。(関心・意欲・態度)
- ◎ 絵本などを自ら読むことができる。
 - 学習場面で、自ら文字を読むことができる。
 - △ 促しを受けて、文字を読むことが多い。
- ②友だちの答えが合っているかを言うことができる。(思考・判断・表現)
- ◎ 発表を見て、自ら「違うよ」などと呟くことがある。
 - 「合っていますか」と質問され、答えることができる。
 - △ 言葉かけを受け、友だちの答えに目を向けることができる。
- ③濁音や半濁音、拗音を含む平仮名の文字カードを組み合わせ、単語を作ることができる。(技能)
- ◎ 半濁音や拗音を含む文字カードを組み合わせることができる。
 - 濁音を含む文字カードを組み合わせることができる。
 - △ 濁音と清音の違いに気付くのに言葉かけが必要。
- ④拗音や濁音、半濁音の違いに気付き、平仮名を読むことができる。(知識・理解)
- (1) 清音 ◎ 45/45 ○ 40以上/45 △ 0/45
 - (2) 濁音 ◎ 20/20 ○ 5以上/20 △ 0/20
 - (3) 半濁音 ◎ 5/5 ○ 5/5 (ヒントあり*1) △ 0/5
 - (4) 拗音 ◎ 36/36 ○ 0以上/36 (小さい文字に着目*2) △ 0/36
- *1 「ば」に続けて「び・ぶ・ぺ・ぼ」と読むことができる。
- *2 小さい文字に着目し、正確ではないが読もうとすることができる。

主な担当児童 学年 [性別]	児童の実態							個別目標	主な指導場面, 評価方法
	①	②	③	④					
				清音	濁音	半濁音	拗音		
A 2年 (*)	○	○	△	◎ 45/45	△ 0/20	△ 0/5	△ 0/36	・平仮名カードの濁音と清音を比較し、正しい方を選び、4文字の単語を作ることができる。(技能)	4 (観察・発表) 5 (観察)
	◎	○	○	◎	◎	◎	○	・拗音を含む平仮名カードを組み合わ	4

B 2年 (*)				45/45	20/20	5/5	2/36 小さい文 字に着目	せ、単語を作ることができる。(技能)	(観察・ 発表) 5 (観察)
C 2年 (*)	○	○	△	○ 42/45	△ 0/20	△ 0/5	△ 0/36	・平仮名カードの濁音と清音を比較し、正しい方を選び、3文字の単語を作ることができる。(技能)	4 (観察・ 発表) 5 (観察)
D 2年 (*)	○	◎	○	◎ 45/45	○ 9/20	○ 5/5 ヒントあり	○ 0/36 小さい文 字に着目	・拗音を含む平仮名カードのうち、正しい表記(文字が小さく表記)されたものを選び、単語を作ることができる。(技能)	4 (観察・ 発表)
E 2年 (*)	○	○	◎	◎ 45/45	◎ 20/20	◎ 5/5	◎ 36/36	・拗音を含む平仮名カードを、大きい文字と小さい文字がばらけた状態から組み合わせ、単語を作ることができる。(技能)	4 (観察・ 発表)
F 2年 (*)	△	△	◎	◎ 45/45	◎ 20/20	◎ 5/5	◎ 36/36	・拗音を含む平仮名カードを、大きい文字と小さい文字がばらけた状態から組み合わせ、単語を作り、教師の促しで読み上げることができる。(技能)	4 (観察・ 発表)

3 展開

形態 時間 (分)	主な学習活動・内容 (必要に応じて配置図等を入れる)	指導の手立て(各Tの役割等) ※評価は□で囲む
全 1 全 2	1 はじめのあいさつをする。 2 本時の目標・学習内容を知る。 (1) 本時の目標を知る。 □・ひらがなをならべよう。□ (2) 本時の学習内容を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・姿勢を正して挨拶をするよう、「おせなかピン」の言葉かけをする。 ・学習内容が伝わりやすいよう、ミニホワイトボードに短い言葉で書く。 ・内容に注目しやすくなるよう、その場で書きながら示す。 ・頑張ったらもらえる、お楽しみシールを見せることで、意欲をより高められるようにする。 ・今どの活動をしているのか、丸印を付けていくことで、見て確かめられるようにする。 ・T2は、Fが安心して取り組めるよう、そばにいるようにする。〈2-(1)〉 ・注目をひきつけられるよう、児童に呼びかける、動きを止める、音量を変える、正面で向き合うなどしてから話

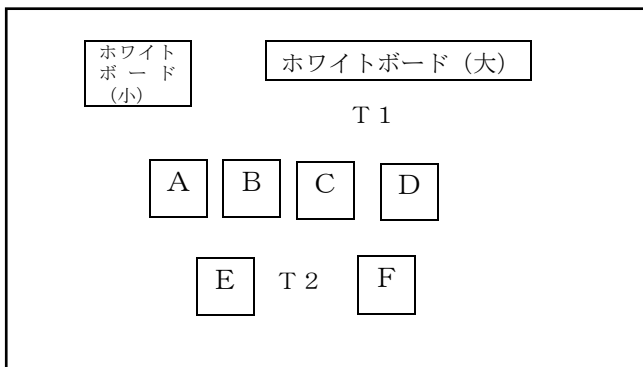
<p>全 6</p>	<p>3 「○○はどっち？」をする。 (1) 濁点の定義を再確認する。 (2) クイズに答える。 (1人1問) 濁音・半濁音・拗音交じり ①イラストを見て、名前を答える。 ②正誤表記をそれぞれ読む。 ③「○○はどっち？」の問いに答える。 ④正誤を○×で確認する。</p>	<p>す。 ・AとCが、濁点がつくと音が変わることがわかるよう、イラストと文字で提示し、比較しながら確認する。 ・できた実感しやすいよう、単語（濁音や半濁音、拗音を含む）の正誤表記からの二択式にする。 ・全員が注目しやすいよう、クイズの提示位置を固定する。 ・声に出して読んだときに、誤表記への違和感がわかりやすいよう、キャラクターや動物など、児童の関心が強く、よく知っているものをクイズに取り入れる。 ・Aに出題するときは、読んだ時の変化に気づきやすいよう、正しい表記のほうから提示する。 ・Bがどこに注目したらよいかわかりやすいよう、濁点を太く大きめに提示する。 ・特にBは、耳からの情報のほうがとらえやすいため、視覚的な情報と音声言語を組み合わせながら、繰り返し伝える。 ・T2は、他の児童が答えているときも、クイズに注目できるよう、言葉かけや指さしなどをして促す。 ・濁点や半濁点、拗音等の有無に注目しやすいよう、赤ペンで印をつけながら答え合わせをする。</p>
<p>全 20</p>	<p>4 食べ物の名前づくり(平仮名ならべ)をする。 (1人1回) (1) ルールの説明を聞く。 ・ひとつずつよむ。 ・じゅんぽんをまもる。 ・すわってまつ。 (2) 前時に選んだ食べ物について、3人ずつ前に出て、平仮名ならべをする。 (A, B, E) (C, D, F) ①ひらがなカードを組み合わせて貼る。 終わったら座って待つ。 〔A, C〕 濁点の有無に注目 →ダミーの清音カード 文字数少なめ 〔B, D〕 単元の期間内に課題をステップアップ(濁音→半濁音→拗音) 〔E, F〕 拗音交じり</p>	<p>・児童の関心の強い食べ物を題材とすることで、自分からやりたいという気持ちを引き出す。 ・特にDが見通しをもって活動に取り組めるよう、視覚的な情報や、短い言葉、順序立てて説明をする。 ・好きな食べ物を選びたい、やってみたいという児童の気持ちを生かせるよう、前時に自己選択の時間を設定する。 ・やりたいものが被ったときはじゃんけんをし、気持ちに折り合いをつけながら、仲良く取り組めるようにする。 ・活動時間を確保できるよう、3人ずつ問題に取り組めるようにする。 ・T2は、主としてFが課題に安心して取り組めるよう、そばで思いやつぶやきを受容したり、課題からそれないよう言葉かけをしたりする。 ・T1, T2は、座って待っている児童にも、課題に取り組んでいる児童に注目できるよう、言葉かけをする。 ・自らカードを取り出して問題に取り組めるよう、文字カードを小分けのケースに入れておく。 ・実態に応じて、文字数や使う文字、一文字ずつ分ける補助線などの工夫をする。 ・Cが、一文字ずつに注目しやすいよう、補助線を加える。 ・わからずに迷っている場合は、教師がすぐに教えるのではなく、他の児童に答えを聞くなど、学び合いができるように促す。 ・Dが自分のミスしたことに対して自信を無くしたり、思っていた流れと異なり見通しが崩れたりした時は、クールダウンできるよう、次の活動を伝えた上で見守る。</p>

<p style="text-align: center;">個 10</p>	<p>②貼ったものを指さしながら読む。</p> <p>③「合っていますか」と全体を確認する。</p> <p>④答え合わせをし、全員で読む。</p> <p>5 個別学習をする。</p> <p>(1) 筆記用具を用意する。</p> <p>(2) 課題に取り組む。</p> <p>T 1</p> <p>[A, B]</p> <p>平仮名なぞり書き, 視写, 空欄補充, 並べかえなど</p> <p>[C]</p> <p>運筆, 正誤表記からの選択, 平仮名の並べかえなど</p> <p>T 2</p> <p>[D, E] 二語文作成 (主語と動詞の並べかえ→視写), 50 音表の視写</p> <p>[F] 三語文作成→見本を視写</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ E は, 拗音の大きい文字と小さい文字がばらけた状態 (例: きゃ→き・ゃ) にしておく。 ・ F が課題に興味を示さなかった場合には, T 1 が他の課題を提示したり, 順番を後にしたり, T 2 が言葉かけをしたりする。 ・ F がパニックになった場合には, パニックの理由になっているものから離す。膝の上に座らせるなど, T 2 と一緒に過ごせるようにすることで気持ちの安定を図る。 ・ 一文字ずつを意識できるよう, 一つずつ指さししながら読むよう言葉かけをする。 ・ 友だちの答えに注目したり, 発言したりできるように「合っていますか」と確認するやりとりを入れる。 ・ T 2 は, 注目が逸れている児童がいた場合は, 言葉かけをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: 平仮名カードの濁音と清音を比較し, 正しい方を選び, 4 文字の単語を作ることができる。(技能)</p> <p>B: 拗音を含む平仮名カードを組み合わせ, 単語を作ることができる。(技能)</p> <p>C: 平仮名カードの濁音と清音を比較し, 正しい方を選び, 3 文字の単語を作ることができる。(技能)</p> <p>D: 拗音を含む平仮名カードのうち, 正しい表記 (文字が小さく表記) されたものを選び, 単語を作ることができる。(技能)</p> <p>E: 拗音を含む平仮名カードを, 大きい文字と小さい文字がばらけた状態から組み合わせ, 単語を作ることができる。(技能)</p> <p>F: 拗音を含む平仮名カードを, 大きい文字と小さい文字がばらけた状態から組み合わせ, 単語を作り, 教師の促しで読み上げることができる。(技能)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ T 1 は, 個別学習と振り返り, 挨拶の流れについて説明する。 ・ 平仮名の視写や平仮名の読み, 並べかえなどの課題を用意する。 ・ A, B が空欄補充をする際, 手掛かりにできるよう, ひらがな表を用意する。 ・ C が濁点の有無に注目しやすいうよう, A, B よりも文字を大きくした教材にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>A: 平仮名カードの濁音と清音を比較し, 正しい方を選び, 4 文字の単語を作ることができる。(技能)</p> <p>B: 拗音を含む平仮名カードを組み合わせ, 単語を作ることができる。(技能)</p> <p>C: 平仮名カードの濁音と清音を比較し, 正しい方を選び, 3 文字の単語を作ることができる。(技能)</p> </div>
---	---	--

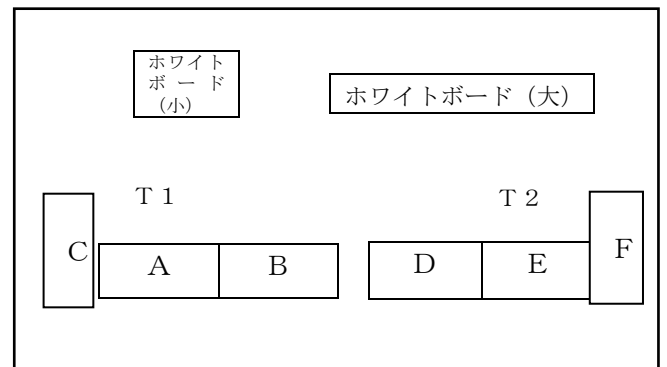
全 5	(3) ファイルに綴じる。 6 振り返りをする。 (1) 一人ずつ感想発表をする。 (2) T 1, T 2 の話を聞く。 (3) ワークシートに記録する。 好きなシールを貼る, 100 点と書く	<ul style="list-style-type: none"> ・特にA, B, Cが, 「わたしは～がたのしかったです。」「～をがんばりました。」といった話し方ができるよう, T 1 が最初に見本を示す。 ・個別の振り返りシートを用意し, 頑張った記録を手元に残せるようにする。 ・毎時間「がんばった」「ひらがなできた」の項目を確認し, できたら好きなシールを選んだり, 100 点と書いたりできる時間とし, 達成感や意欲につながられるようにする。 ・T 1, T 2 それぞれから, 児童が頑張っていたことを伝え, 次時への意欲を高められるようにする。
全 1	7 おわりのあいさつをする。	

【座席配置図】

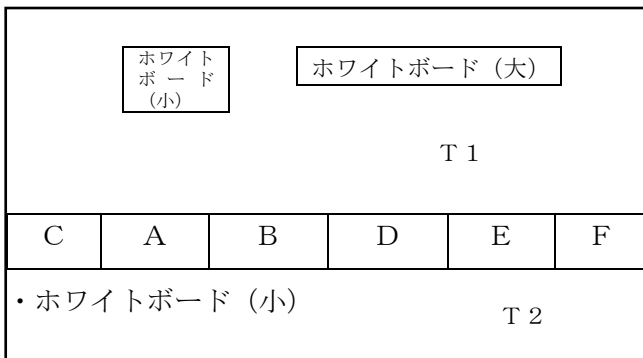
・集団（主活動）＊椅子のみ



・個別



・集団（振り返り）




【板書計画】

・ホワイトボード (大)

⑦ おわりのあいさつ

⑥ ふりかえり

⑤ こべつがくしゅう

④ たべものなまえ 

③ ○○はどっち?

② やること・がんばること

① はじめのあいさつ

がんばること

ひらがなをならべよう

食 べ 物 真 食 写

【振り返りシート】

/	/	/		なまえ
		★	がんばった	(
		★	ひらがな できた)